

2.

心身の健康、 マナー・モラル について

心身の健康

早大生はとっても健康？！

心身ともに「健康」 **52.4%**

「ほぼ健康」 **34.5%**

健康維持の方法

よく寝、よく食べ、よく動く！

健康維持に、男性は「スポーツ」 **17.1%**

女性は「食事」 **26.2%**

不安や悩み

「進路・就職」は、文系理系ともに悩みNo.1
「勉強」の不安は理系に多い！

学生生活の悩みの **28.8%** が「進路・就職等」

相談相手

悩みの相談相手をゲットするには
交友関係の充実が決め手！

相談相手まずは「友人」 **39.5%**

次が「家族」 **21.2%**

住居の形態と健康の関連

住居形態：自宅と自宅外は、ほぼ半々

自宅学生 **54.0%**

自宅外学生 **46.0%**

分煙の効果

知られていない西早稲田キャンパスの
分煙、改善されない喫煙マナー

喫煙マナーは「あまり/まったく改善されていない」

47.1%

「分煙実施を知らなかった」

大久保 **52.7%**、所沢 **48.0%**

学生のマナー

学生マナー、ワーストは授業中の私語

男性が思うワーストは「私語」 **25.4%**

女性は「喫煙」 **19.6%**



1. 早大生は、とっても健康!?

POINT → 心身ともに「健康」**52.4%**、「ほぼ健康」**34.5%**

「あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？」という質問に、86.9%の学生たちが「健康である」、「ほぼ健康である」と答えています。

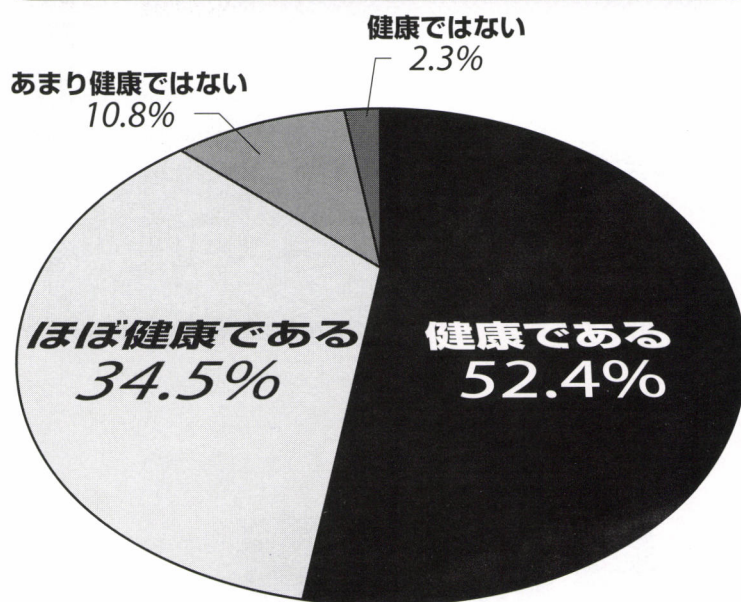
また「実践に役立つ技術や資格を得るという点で充実していますか？」という質問に、「充実している」と答えた学生たちの94.2%が「健康である」、「ほぼ健康である」と答えています。

一方、この質問に「充実していない」と答えた学生は、「健康である」と答える人数の方が多いものの、「充実している」と答えた学生に比べると「健康ではない」、「あまり健康ではない」と答える学生が多くなっています。

さらに学年別に見ると、就職活動や卒業研究等で忙しいはずの4年生が、最も「健康である」と答える学生が多くなっています。4年生になり、卒業や就職に向けて、毎日の緊張感が高まることから、かえって健康につながるのかもしれませんが。

キャンパス別に見ると、「健康ではない」「あま

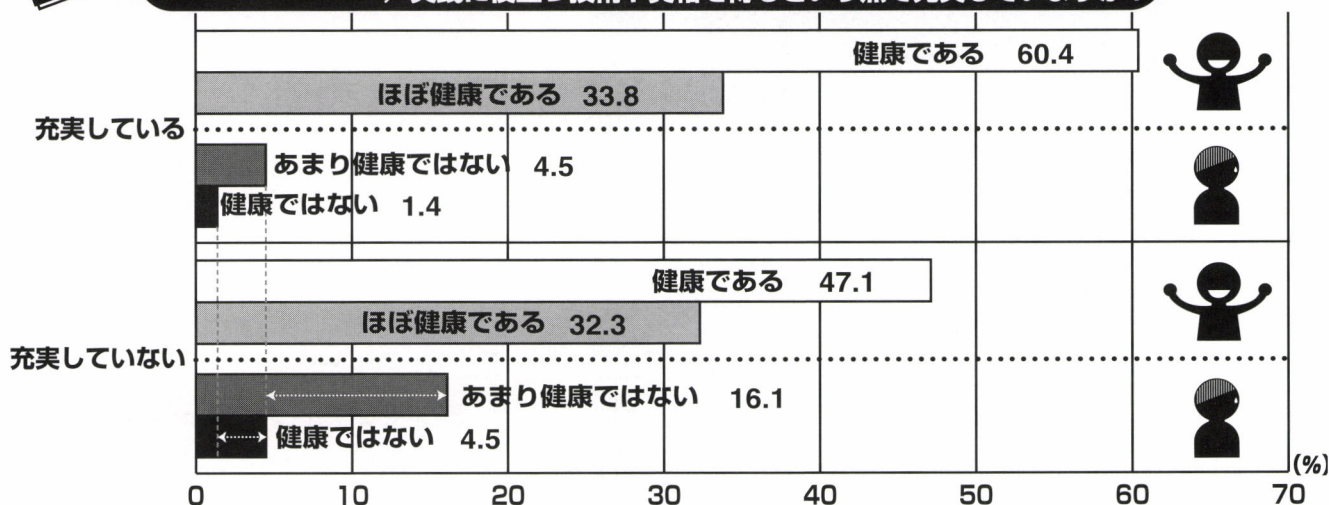
あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？



り健康ではない」と答えた学生が最も多いのが戸山キャンパス（16.2%）で、他学部を5ポイントほど上回っています。さらに「体育各部・サークル活動に参加したことがない」と答えた人に、「健康ではない」と答えた学生たちが多いのが特徴となっています。

一部抜粋

あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？
／実践に役立つ技術や資格を得るという点で充実していますか？





健康維持の方法

2. よく寝、よく食べ、よく動く！

POINT

健康維持に、男性は「スポーツ」**17.1%**
女性は「食事」**26.2%**

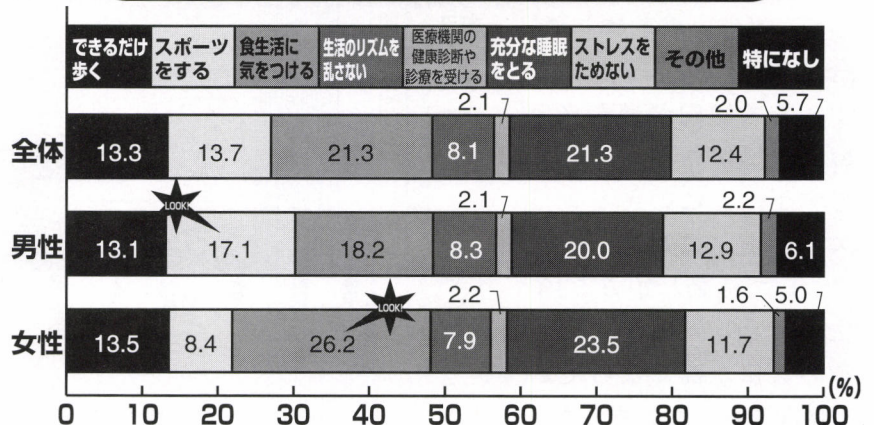
「心身の健康を維持するために心がけていることはありますか？」という質問に対して、「十分な睡眠をとる」、「食生活に気をつける」ことが最も多く選ばれています。しかし男女別に見ると、大きな違いに気が付きます。男性は「スポーツをする」ことで健康を維持するのに対して（男性17.1%、女性8.4%）、女性は「食生活に気をつける」ことが健康維持の秘訣のようです（男性18.2%、女性26.2%）。

スポーツ施設が整っているせいか、「スポーツをする」のは所沢キャンパスの学生が19.7%と最も多く、戸山キャンパスの9.2%と比べると差が見られます。

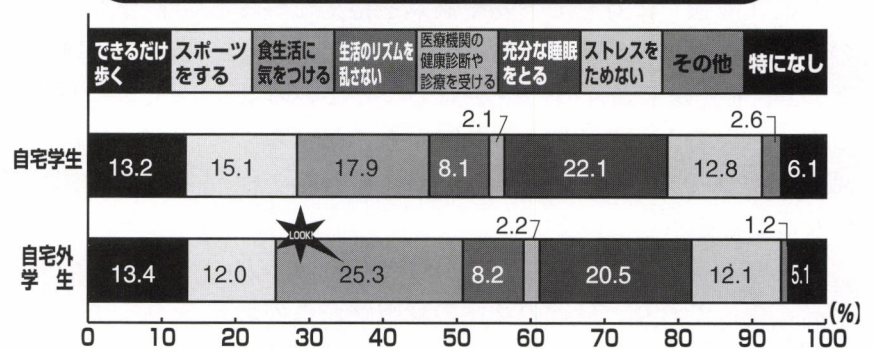
また住居形態との関連を調べてみると、「食生活に気をつける」のは自宅外学生の方が多くなっています。

一方、健康維持のために「スポーツをする」、「できるだけ歩く」というように、身体を動かすことを心がけている人たちに、5年以上の学部学生や、修士課程、博士課程の学生が目につきます。どうやら年齢の推移とともに、健康維持に対する意識の高まりや変化があるよ

心身の健康を維持するために心がけていることはありますか？（男女別）（複数選択可）



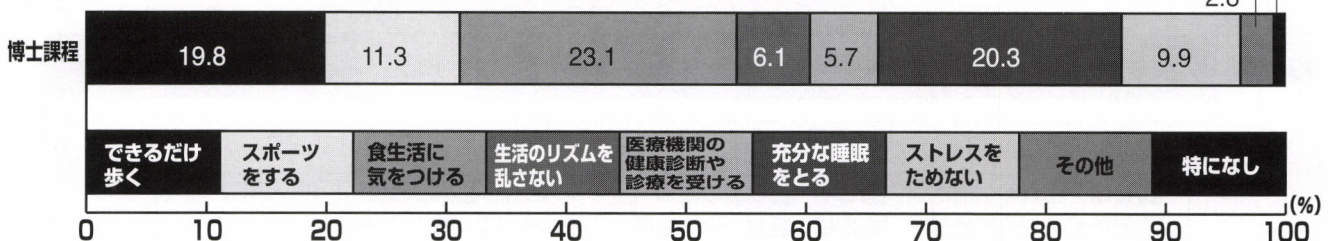
心身の健康を維持するために心がけていることはありますか？（住居形態別）（複数選択可）



うです。特に博士課程の学生になると、「できるだけ歩く」、「食生活に気をつける」、「医療機関の健康診断や診療を受ける」という項目が、他の学年よりも目立ってきます。

一部抜粋

心身の健康を維持するために心がけていることはありますか？（博士課程のみ）（複数選択可）





3.「進路・就職」は、文系理系ともに悩みNO.1 「勉強」の不安は理系に多い！



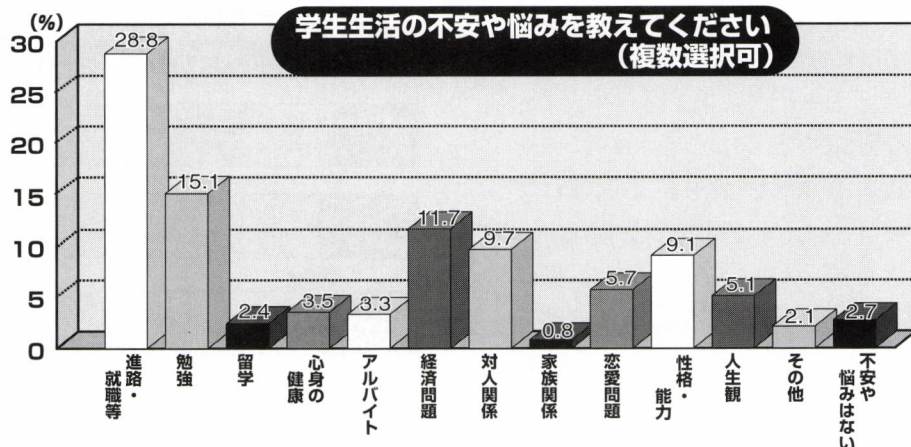
学生生活の悩みの**28.8%**が「進路・就職等」

「学生生活での不安や悩み」の第1位は何と言っても「進路・就職等」で、全体の28.8%を占めています。その傾向が最も高いのは西早稲田キャンパスですが、どこのキャンパスでも実際に進路や就職について活動し始める3年生から学年が上がるほど、その数値が高くなっていく傾向をもっていました。

これとは対称的に、学部学生の場合、「勉強」に対する不安は学年が上がるほど少なくなっています。

この「勉強」に対して不安や悩みを抱えているのは、文系よりも理系の学生です。学年別に見ると、1年生と修士課程の学生が高くなっていることから、大学や大学院に入学してから、しばらく見通しがつくまでは、「勉強」が不安や悩みの種になることを示しています。

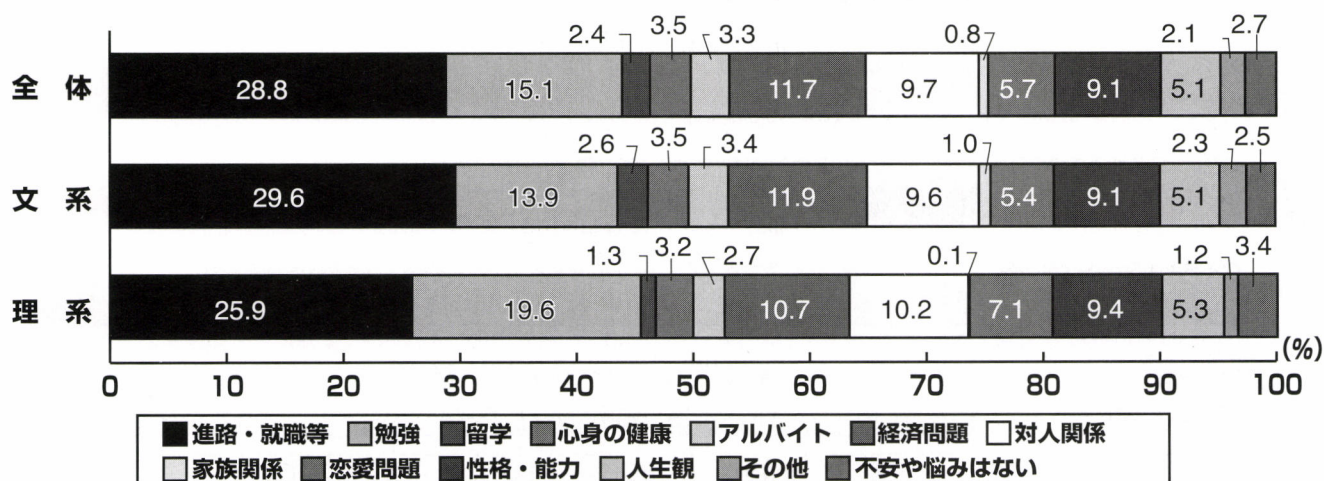
「進路・就職等」に関しては男性より女性の方が高くなっており、最近の女性の就職難がこの数値に反映していると考えられます。一方、「経済問

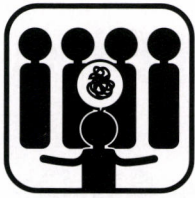


題」や「恋愛問題」では男性の方が高いのが特徴です。また「経済問題」は自宅学生より自宅外学生の方で高くなっています。さらに博士課程の大学院学生の場合も、「進路・就職等」もさることながら、「経済問題」が高くなっています。

また4年生では「人生観」が、他の学年よりも目立って高いという特徴が見られます。そして学部学生は大学院学生に比べて自分の「性格・能力」で悩んでいるようです。学部での生活期間は、自分を見つめ直す期間でもあることを示しているようです。

学生生活の不安や悩みを教えてください
(文系・理系別) (複数選択可)





相談相手

4. 悩みの相談相手をゲットするには 交友関係の充実が決め手！

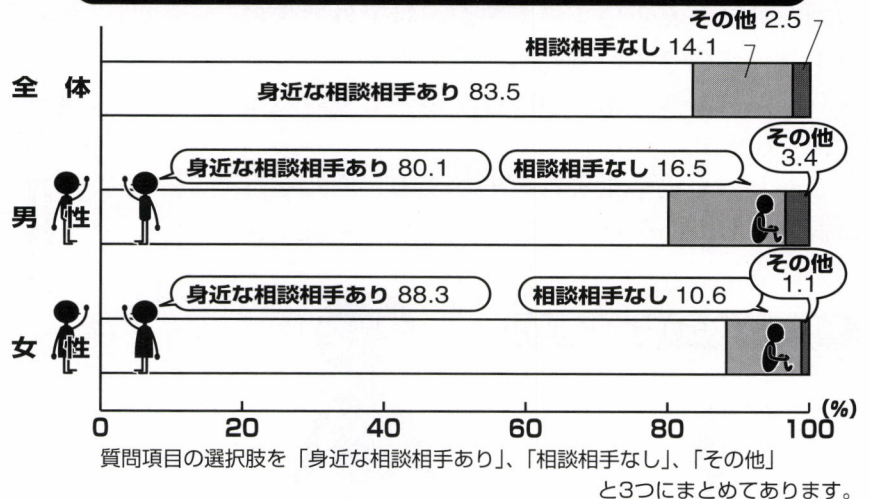
POINT 相談相手、まずは「友人」**39.5%**、次が「家族」**21.2%**

不安や悩みの相談相手は「友人」や「家族」が多いのですが、「家族」に相談するのは女性の方に強く見られます。一方、男性は女性に比べると「先輩」を相談相手に求めたり、誰にも「相談したくない」という傾向が高く見られます。また男性の中には「大教室のために友人がつかれない、相談所が利用しにくい」や「学生が安心して悩みを打ちあけられる場を充実させてほしい」という意見も聞かれました。

男性回答者の16.5%が「相談できる人がいない」、「誰に相談してよいか分からない」、「誰にも相談したくない」と回答し、不安や悩みを気軽に打ち明けられずにいる男性の姿が浮き彫りになる一方、身近なところに相談相手を作り、上手に不安や悩みを解消している女性の姿も垣間見ることができます。

また「相談できる人がいない」学生や、「誰に相談してよいか分からない」と答える学生に、心身の健康状態があまり良くない学生が多いという

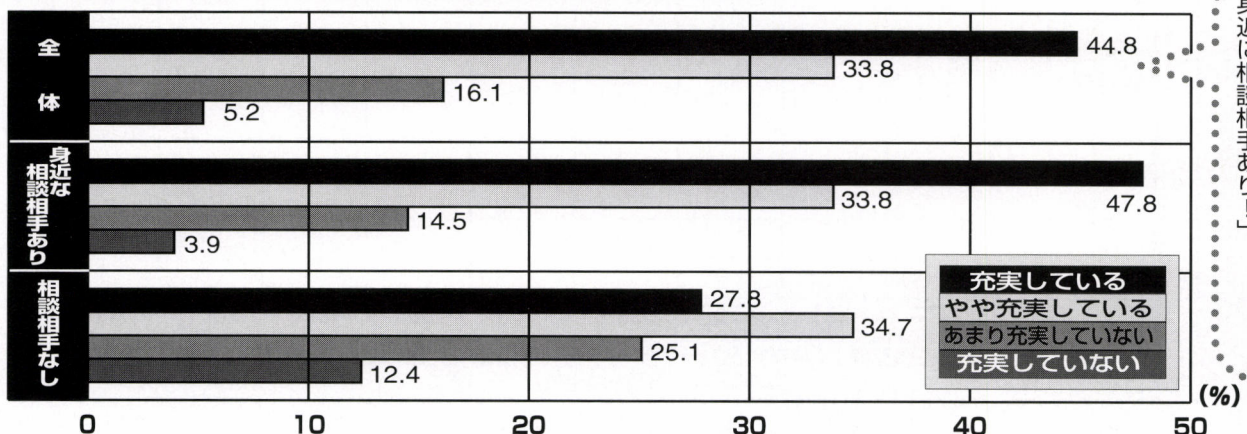
不安や悩みは誰に相談しますか？（男女別）（複数選択可）



結果も得られました。

おもしろいことに、家族、友人、恋人、先輩、教職員など、身近なところに相談相手がいる学生は、同時に、交友関係が充実している学生に多く見られます。相手が誰にしろ、相談できる対象を持つ学生の81.5%が「交友関係を構築するという点で充実している」または「やや充実している」と答えています。どうやら、まずは交友関係を構築することが、不安や悩み解消の秘策と考えられるようです。

交友関係を構築するという点で充実していますか？
／不安や悩みは誰に相談しますか？（複数選択可）



「交友関係が充実している学生には
身近に相談相手あり！」

充実している
やや充実している
あまり充実していない
充実していない

(%)

質問項目の選択肢を「身近な相談相手あり」、「相談相手なし」、「その他」と3つにまとめてあります。



住居の形態と健康の関連

5. 住居形態：自宅と自宅外は、ほぼ半々



自宅学生 **54.0%**、自宅外学生 **46.0%**

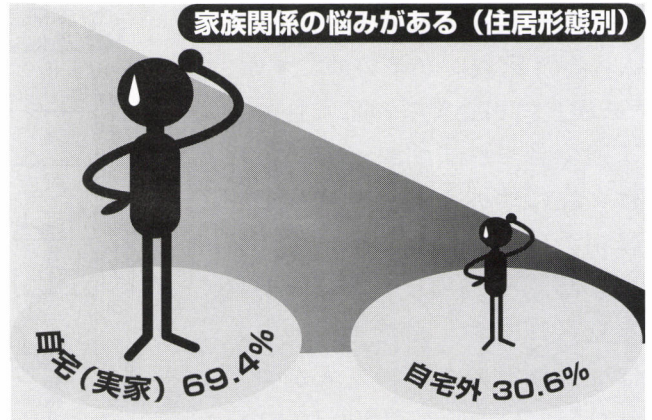
どのキャンパスでも「自宅(実家)」と「自宅外」の割合は同じくらいなのですが、自宅外学生の方が自宅学生を上回るのは、所沢キャンパスです。キャンパスの地理的条件が影響していると考えられます。

しかし、自宅学生も自宅外学生も、それぞれに悩みはあるようです。「学生生活での不安や悩

健康ではない (住居形態別)



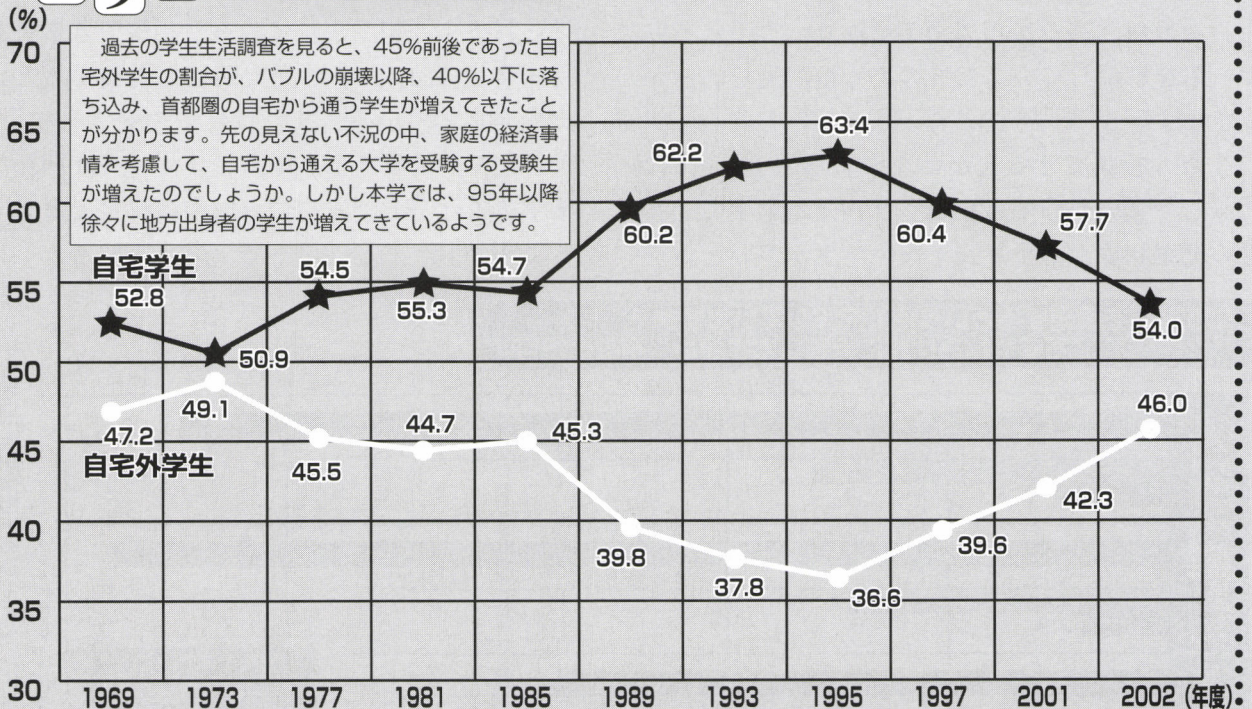
家族関係の悩みがある (住居形態別)



み」を聞いた質問に対して、「家族関係」と答えた学生の69.4%は、自宅学生でした。それに対して「心身ともに健康かどうか」を聞いた質問に対して「健康ではない」と答えた学生の66.7%が自宅外学生となっていました。

コラム

住居の形態 (経年変化)



1995年度、1997年度の調査は、「学部学生」、「大学院学生」、「留学生」と対象者を分け、それぞれに別の質問項目で調査しているため、ここでは「学部学生」の数値を掲載しています。



分煙の効果

6. 知られていない西早稲田キャンパスの分煙、改善されない喫煙マナー

POINT → 喫煙マナーは「あまり/まったく改善されていない」**47.1%**
「分煙実施を知らなかった」:大久保**52.7%**、所沢**48.0%**

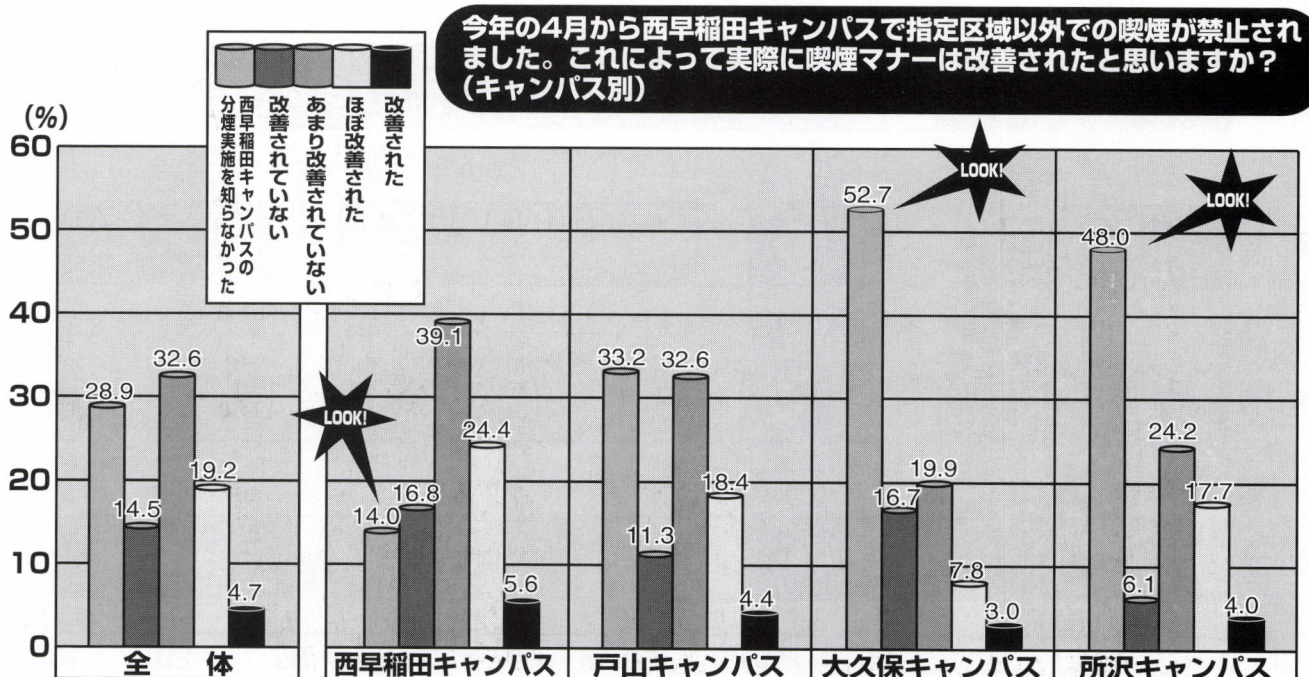
今年の4月から西早稲田キャンパスで指定区域以外での喫煙が禁止されたのですが、そのことは意外と知られていないようです。最も知らなかったのは、大久保キャンパスの学生で、所沢、戸山がそれに続きます。当の西早稲田キャンパスでさえも、14.0%の学生が「知らない」と答えており、全学的に周知が徹底される必要性があることを示しています。

しかし、このような分煙実施にもかかわらず、喫煙マナーが改善されたのかというと、そうでもなさそうです。「改善された」と実感できた人は、4.7%にすぎません。一方、「あまり改善されていない」と「改善されていない」を合わせると、47.1%になります。「禁煙区域での喫煙」や「歩きタバコ」に関しては、以前よりも改善された印象はあるようですが、思ったより分煙効果が表れていないのが実情です。特に西早稲田キャンパス自体で、そのように感じる学生が多いという、少々残念な結果となりましたが、かえっ

て分煙に対する意識と期待の高まりが、この数値に跳ね返ったとも考えられます。

「学生が多い時期に、歩きタバコのせいで、服や荷物が焦げたり、火傷させられたことがある」、「歩きタバコ、タバコのポイ捨て、未成年者の喫煙が目立つ」、「学生の喫煙は早急に解決してほしい」、「分煙の効果が見られない」、「禁煙の貼り紙も無視して教室内で堂々と吸っている。まるで無法地帯」といったクレームが自由記述回答の中でもかなり目立ちます。

さらに、分煙をしたと言っても、「トイレ前など、タバコを吸わない人も通らなければならない場所に設置された喫煙コーナーを他に移動してほしい」という女性の意見もありました。学生の喫煙マナーに対する意識をもっと高めると同時に、「キャンパス全面禁煙化」といった意見も、これからは視野に入れる必要が出てくるのかもしれない。





7. 学生マナー、ワーストは授業中の私語



POINT 男性が思うワーストは「私語」**25.4%**、女性は「喫煙」**19.6%**

学生のマナーが最も悪いと思われる項目として「授業・ゼミ中の私語」が22.3%と、最も多く選択されていますが、「授業・ゼミ中の携帯電話」や「授業・ゼミへの遅刻」とあわせると、これら授業に関連した項目だけで約4割を占めます。キャンパス別に見ると「私語」を選択する人が最も多かったのは大久保キャンパスで、最も少なかったのは戸山キャンパスでした。

この結果を見て、もちろん周囲に不愉快な思いをさせている学生自身が反省し、改めるべきことではありますが、私語や遅刻が減少しないのは、「授業終了直前に来た学生を黙認する教授がいる」ことも原因の一部となっていることを教員側も考える必要があります。

携帯電話に関しては授業中だけでなく、図書館やPCルームでも不愉快な思いをしているようで、「図書館やPCルームにおける携帯電話マナー違反

者や飲食物の持ち込み違反者に規制や罰則を与えるべき」といった意見など、自由回答の中でもクレームが目立ちました。

女性では、「喫煙マナー」の悪さを指摘する声が多いたのですが、「立看板・ビラ・ポスターの大量消費」といった環境への意識が男性より高いのが大きな特徴となっています。また「教室の机の上に配布されたり掲示板に貼られるチラシの取り締まりをしてほしい」、「構内をきれいにしてほしい」、「トイレをもっときれいに」という意見も女性から多く聞かれました。喫煙と並んで、教室内など禁止されている場所での飲食に関しても取り締まりの強化を求める声が聞かれました。

いずれにしても、入学してみて、マナーの悪い学生が予想以上に多いことを指摘する意見が少なくないことを認識し、気持ち良く勉強できる環境づくりにそれぞれが努力する必要があるようです。

学生のマナーがもっとも悪いと思われる項目を選んでください。(男女別)

